

平成 30 年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標を掲げている。

1. げんきであかるい子
2. こころのやさしい子
3. よく考え、工夫し、表現する子

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

教育・保育要領改訂に基づき、子どもを主体とした教育・保育を保障し、自ら学ぶ力が獲得できるような保育計画の立案をすすめた。また、保育室の増築や保育室設定の改善を重ね、保育環境の向上にも努めた。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
認定こども園教育・保育要領の改定内容の理解・研究を更にすすめながら、園の教育目標に沿った保育計画の立案を行い実践する。	昨年度に引き続き積極的に研修に参加し、改定内容への理解を深めてきた。その上で、本園においてそれらをどのように取り入れていくのか研究、実践、評価、改善を重ねた。しかしながら保育計画については研究が不十分であり、今後も見直しを重ねる必要がある。	B
園外研修へ積極的に参加し、研修内容の報告、研究を全職員で行うことにより、園全体の保育の向上に繋げていく。また、園内保育研究を重ねることで指導改善をすすめていく。	多くの職員が様々な分野の園外研修に参加し知識を深めた。そして更に報告の機会を持つことで、全職員が研修内容を共有し園全体の保育向上に繋がった。また、園内保育研究を行なうことで、保育教諭一人ひとりの保育の振り返りの機会が得られ、その後の保育指導に成果が見られた。今後も継続していきたい。	A
特別な支援の必要な子どもに対する適切な指導や援助、関わりについて学べるよう研修会に参加したり、専門機関から助言を受けたりする。必要に応じて専門機関と連携しながら指導計画を作成し実践していく。また相談担当職員がいつでも対応できる体制を作る。	特別な支援の必要な子どもに対する指導や援助、関わりについて学べる研修会に積極的に参加してきた。また、専門機関との連携を密にとり、指導計画の立案、実践を進めてきたことで個々に適した支援が提供できた。更に担当保育教諭が保護者の悩みに寄り添い支援する事にも努めた。	A
各種マニュアルを整え、緊急時の対応が適切に行えるよう繰り返し研修を行う。また、日常の健康管理や疾病予防、安全点検の実施や園児の安全能力の向上を図る。	各種マニュアルを整え緊急時の対応に備えてきた。しかしながら、保育現場での実践のためには、内容の改善・職員の意識改革が急務である。適切な対応に繋げるため、分野毎グループ体制を作り、リーダーを中心に小集団で研究を重ねている段階である。 日常の健康管理や安全点検には情報交換を密にして対応している。	C

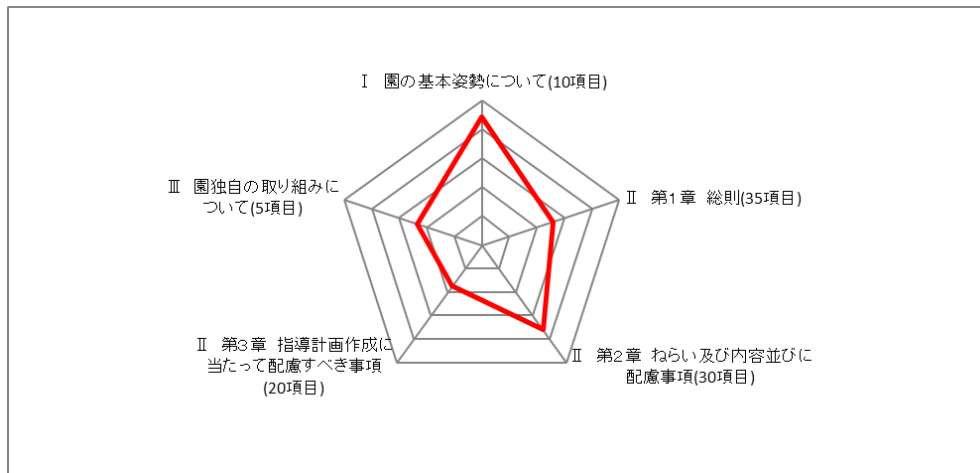
4. 自己評価結果と分析

- ・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す。

- ・分析

評価が低い項目については職員の取り組み不足があげられる。それらを、今後取り組むべき課題として掲げることで、改善が進められる。



5. 今後取り組むべき課題

幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂に基づく保育計画の確立	改訂内容の理解を深め、子どもを主体とした「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「育みたい資質・能力」を視点とする保育計画の立案に努める。また、実践、評価、改善を循環して行うことで保育計画の向上に繋げていく。
園内研究保育の実践	0歳児から5歳児まで、子ども一人ひとりの発達や学びの連続性を意識した保育を目指し、それぞれの年齢にふさわしい育ちが出来ているかという観点のもと、学年の繋がりをもった研究保育課題に取り組む。
保護者との連携	多種多様な保育ニーズを必要とする園児をお預かりする中で、一人ひとりが安定し、自己を十分に発揮できる生活を保障するためには保護者との連携が欠かせない。幼保連携型認定こども園として、保護者と共に取り組むべき課題の改善、解決を目指す。
食物アレルギーや熱性けいれんなど、健康管理が必要な園児に対する対応の徹底	各種マニュアルを改善させると共に、特に食物アレルギー、事故防止、危機管理については全職員が共通理解することを徹底する。その上で園児の安全で安心な生活保障のために、全職員が同じ意識で臨むよう努める。また、緊急時の対応が適切に行えるよう繰り返し訓練を行う。

6. 学校評価評議員会で出された意見

- ・危機管理対策として災害対策マニュアル(地震、台風、火事など)を整え訓練しているようだが、これからは児童虐待、食物アレルギー、不審者対策など多岐にわたる危機管理も必要である。状況によっては児童相談所、警察、保健所などの関係機関との連携・協力をしていく必要がある。

- ・自己評価の評価項目を再検討してほしい。例えば「職員同士、または子どもたちと笑顔と共に大きな声で挨拶できましたか？」など若手保育教諭の資質向上に繋がる具体的な項目にしたらどうか。

7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。